

世界展開力強化事業 長期留学 第2回報告書

ブラジル連邦共和国 サンパウロ大学 (ESALQ-USP) 国際食料情報学部
食料環境経済学科 内海真登

・はじめに

長期留学がはじまり4ヶ月以上が経ち、農大関係者の方やESALQの先生、学生はじめ多くの人々のサポートしてもらい、ブラジルでの言葉も文化も違う生活にも慣れる事ができた。最初の1ヶ月に比べ日々の暮らしがスムーズに送れるようになり、よりESALQの授業や農場での研修に集中して取り組めるようになった。これからもそうした方達への感謝を忘れず、さらに充実した留学に出来るよう精進していきたい。また日本から遠く離れたブラジルに長期間勉強出来る機会をもらっていることを意識し大学の講義だけではなく、様々な農地での実習などを通してデータや文献だけでは分からない“本当”のブラジル農業を学んで行きたい。

今回の報告書は約3ヶ月と長い期間について書くため、主な活動内容をいくつかに分けて報告する。

・トメアス研修

6月前半から7月後半までブラジル北部のパラー州、トメアスという日本移住地で約40日間の研修を行なった。トメアスはアグロフォレストリーによる農業を実践している地域でもあり、その農法で収穫された多様な作物を加工・販売する農協が存在する。私はこのトメアス農協（以下CAMTAと表記）の販売の仕方や所有しているジューズ工場の加工について学んだ。最初の1週間はCAMTAの集荷状況や主要作物であるカカオとピメンタの販売の仕方やデータを教えて頂いた。国際価格の推移やブラジル国内の流通にかかる税金、輸出ルートについては普段大学では学べない事も多く、非常に興味深く充実した内容だった。残りの約1ヶ月は3日ずつCAMTAの組合員の農場でアグロフォレストリーの栽培方法やどのように農場を運営しているかについて学んだ。合計で8つの農家さんの家で実習させてもらい、昼間は農作業をさせてもらい夜は移住当初の事や農業のことについてお話を伺った。移住直後の原生林をゼロから切り開いた努力、胡椒の病害やマラリアに苦しんだ歴史のお話は貴重で日本には想像も出来なかったものばかりであった。そしてなにより8農家さんのお宅で実習出来た事で、農家さん毎に異なるアグロフォレストリーの形態や考え方について学べたことが良かった。作物の混作・混植により単作による病害等の様々なリスクを分散し、安定した収穫物によ

る現金収入を1年目から行う点は共通しているが、栽培する作物の種類や量の割合は大きく異なる。このように短期間の研修や座学では分からない部分まで学ぶことができ非常に充実したトメアス研修であった。

・ESALQ サマーコース

7月24日から8月4日までの2週間ESALQのインターナショナルサマーコースに参加した。ESALQの学生だけでなく他大学からも様々な国の学生が集まり、ブラジルの農業について英語での授業や企業の見学を行なった。普段の授業と違い座学に加えて実際にESALQにある試験農業や研究設備、さらに大学外の農業関係の一般企業や工場を訪問できたことが良かった。特に印象に残っているのは、Raizenというサトウキビの生産からバイオエタノールへの加工までをしている企業の見学である。種まきから収穫までの全ての生産工程を大きな機械で行なう企業による農業は、日本では見る事の出来ないものであった。改めてブラジルの農業資源の豊かさと規模の大きさを感じ圧倒された。収穫後も大きなボイラーや機械を使いサトウキビを絞り、加熱しバイオエタノールにしていく。私はこのサマーコースを通して、ブラジルは食糧としてだけでなくエネルギーをも農業で生産でき、今後さらに農業分野が発展していく可能性が高いと学んだ。また最終日にはグループ毎にそれぞれの国の農業に関する問題点について発表する機会があり、ブラジルだけでなく他の国の学生とお互いの国の農業について話す貴重な場であった。短時間ではあったが、英語でのプレゼンも初めてだったので非常に良い経験である。サマーコース期間中に様々な国の学生とも仲良くなり、シュラスコなどをしたのも良い思い出である。

・ESALQの授業

8月からはESALQの後期が始まり、3つの授業を履修している。ブラジルの農業政策、国際貿易、農業生産物の販売の3つの授業を履修している。授業は全てポルトガル語で行われるため分からない部分もあるが、予習や復習、友人にも助けてもらいなんとかついていっている状態である。今後も授業内だけでなく授業外の時間も積極的につかい学んで行きたい。またEsalq-logという農作物の流通について調査する研究室での活動についても、大豆とトウモロコシの流通コストについて研究するグループに所属しておりこちらも積極的に取り組んでいきたい。

・伯国農大会慰霊碑建立45周年 慰霊祭

7月30日に農大会慰霊碑45周年の慰霊祭と、ブラジル・アルゼンチン・パラグアイ

の3国校友会親睦懇談会に参加させて頂いた。45周年という記念の会であり、サンパウロから遠く離れた場所から来られた方とお話できる貴重な機会であった。前日にサンパウロのホテルで前夜祭をし、慰霊祭当日は慰霊碑の前でお経と花をお供えし、その後農大会館へ移動し懇談会を行なった。慰霊祭を通してたくさんの南米各地で改めて農大の先輩方の偉大さ南米の社会、農業分野への貢献度の高さを実感した。そして卒業して長い時間が経っても、毎年行なわれる慰霊祭のように定期的に集まれる場があるのは農大の素晴らしいところだと思う。

・世界展開力短期留学生受け入れ

8月19日から27日まで農大から来た短期留学生とサンパウロで一緒に行動した。今年のプログラムは去年同様ESALQでの授業や学生とのシュハスコに加え、日系の果実農家への訪問や日本の文化をブラジルの学生に教える機会も新たに加わり非常に良いプログラムであると感じた。私は去年この短期プログラムに参加したことが、今回長期留学するきっかけになった。それから1年が経ち今年は私が短期の学生を手伝う立場になれた事を嬉しく思う。

・ヘプブリカの引っ越し

トメアスでの研修から帰った7月後半にヘプブリカ(学生のシェアハウス)の引っ越しをした。4月からトメアス研修前までは、これまでに農大の日本人留学生3人受け入れたことのあるPoko Lokoというヘプブリカで暮らしていた。代々日系人が中心に暮らし歴史もあるヘプブリカであった。ヘプブリカはESALQに80以上あり、それぞれにルールや伝統、特徴がある。私はPokoLokoも好きであったが、家賃や日系人以外の人達とも暮らしてみたいという思いからMatadouroという新しいヘプブリカに引っ越しをした。ここには10人の学生が暮らしておりその内日系人は1人だけであるが、みんな非常に暖かく受け入れてくれて非常に快適に暮らしている。また家賃も前の場所と比べると半分以下であり、その点も選んだ理由の1つである。このようにヘプブリカによって様々な点が異なるため、ブラジルの学生は入学した最初はお試し期間があり、いくつかのヘプブリカまわり自分にあつた所を見つけて入る。私も最初はこれまで日本人留学生が暮らしていた場所を移る事に少し悩んだこともあったが、今では引っ越して良かったと強く思う。

これからESALQへの留学を考えている学生には生活する場所はいくつもあり、自分に合った環境や気の合う人達とのヘプブリカの生活を選べる事を知ってもらいたい。もし最初の場所が自分に合わないと感じれば、私のように引っ越す事も可能である。

ここでの学生生活においてヘプブリカで過ごす時間は長くとても重要であるため、ヘプブリカ選びも留学生活において大切である。

- ・トメアスのアサイーと胡椒によるアグロフォレストリー



サマーコースのサトウキビの工場見学



・慰霊祭



・農大短期留学生との日系農家訪問



・新しいへプブリカでのシュラスコ

